

《会議次第》

令和5年度 特別史跡「名護屋城跡並陣跡」保存整備委員会

○日時：令和5年7月11日（火） 10：00～15：00

○場所：佐賀県立名護屋城博物館

○会議次第：

1 開会 10：00

2 現地視察 10：15～12：25

○令和5年度 整備工事实施予定箇所

・ 名護屋城跡 上山里丸草庵茶室跡（修景整備）

○令和5年度 発掘調査実施予定箇所

・ 名護屋城跡 弾正丸（石垣修理）

・ " 弾正丸下（帯曲輪・石採り場）

・ " 水手通路

・ 黒田長政陣跡

○令和6年度以降 発掘調査・整備工事实施予定箇所

・ 前田利家陣跡

【— 昼 食 — 12：40～13：30】

3 検討協議 13：40～14：50

4 閉会 15：00

第1回環境整備専門部会 会議資料

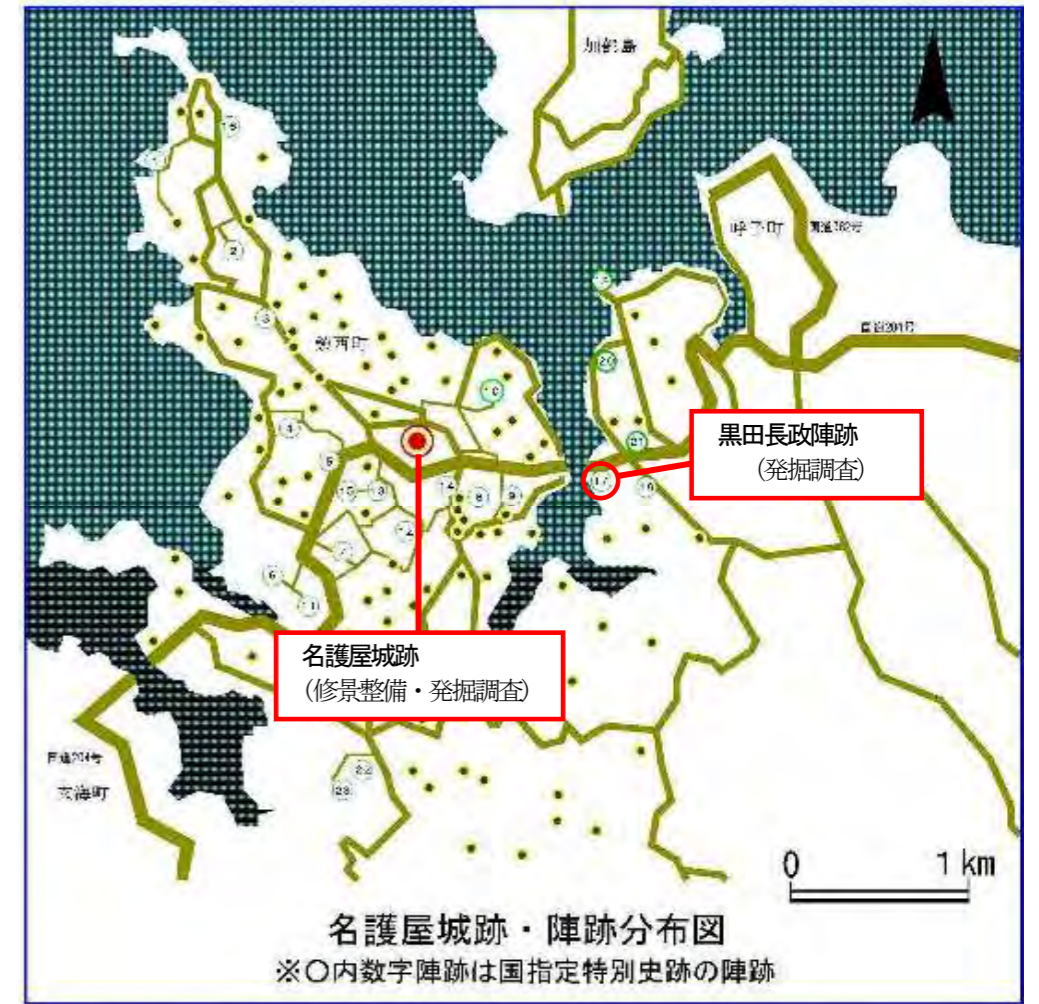
佐賀県立名護屋城博物館

名護屋城跡並陣跡保存整備事業について

名護屋城跡並陣跡保存整備事業は、文化庁および保存整備委員会の指導・助言を受けながら、昭和60年に策定した「名護屋城跡並びに陣跡保存整備計画」に基づいて、昭和62年から第1期計画（～平成4年）に着手した。同期計画内では崩壊寸前の石垣修理を中心とし、続く第2期計画（平成5～14年）では、城内見学対象箇所危険石垣の修理を開始するとともに、城内および城下町全域において必要最小規模での発掘調査による基礎的資料の収集を目的とした予備調査を実施してきた。その結果、本丸御殿跡や草庵茶室跡、出島跡などといった、豊臣秀吉が直接使用した全国で唯一の遺構が続出するなどの成果をあげ、そのつど県内はもとより全国からの注目を浴びた。さらに第3期計画（平成15～24年）では、これまでに城内で発見された数々の遺構を安定化させたうえで修景・表示し、園路等の整備を行い、来訪者に常時公開することを主目的とした整備事業を進め、これまでに天守台、本丸多聞櫓跡、本丸旧石垣、三ノ丸井戸跡などの整備工事を行っている。

一方、名護屋城跡の周辺には、諸大名の陣跡が150箇所以上分布しており、これまでに23陣跡が特別史跡の指定を受け、うち4陣跡での環境整備が終了している。また発掘調査では、第2期計画で徳川家康（別陣）、前田利家、また第3期計画では地元佐賀の鍋島直茂の陣跡について、将来的整備に向けた発掘調査を実施した。次の第4期計画（平成25～令和4年）では、第3期から続く本丸御殿跡の整備が完了し、上山里丸草庵茶室跡の整備事業に着手した。草庵茶室跡では、発掘調査成果に基づく遺構平面表示などを行った。発掘調査は、船手口周辺や太閤井戸、弾正丸下など、城域縁辺部を対象とした。陣跡では、歴史上の重要人物や九州にゆかりの深い大名陣跡を優先し、徳川家康（本陣）、島津義弘陣跡の調査を実施した。

このように「名護屋城跡並陣跡」は、国内最大の桃山時代の遺跡であるうえ、遺構の残存状況が良好で極めて高い稀少価値を持つため、今後も調査・整備を行っていく必要がある。令和5年度からの第5期計画（～令和14年度）では、上山里丸草庵茶室跡など重要遺構の整備公開を継続する。また、城域縁辺部の予備調査を継続することで遺跡の全体像を把握し、保存のための具体的方策を検討する。陣跡では、第4期計画から引き続き歴史上重要な大名を優先し、黒田長政、前田利家陣跡などの発掘調査、整備を実施する予定である。



●令和5年度事業について

史跡整備では名護屋城跡の上山里丸草庵茶室跡の修景整備を行う。また、整備報告書作成に向けた整理作業は、名護屋城跡二ノ丸・三ノ丸について行う。発掘調査では、名護屋城跡（弾正丸石垣・水手通路・弾正丸下）、黒田長政陣跡の調査を実施する。発掘調査報告書刊行に向けた整理作業は、総括報告書（Ⅱ）、島津義弘陣跡について行う。

●令和5年度名護屋城跡並陣跡保存整備事業スケジュール

事業内容		主な費用区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
名護屋城跡	◎上山里丸草庵茶室跡 修景整備工事	委託費・工事費				←								→	北西側法面補強工事
	◎発掘調査	報酬・社会保険				←								→	発掘作業員任用
	◎報告書作成作業	報酬・社会保険・委託	←											→	
黒田長政陣跡	◎発掘調査	報酬・社会保険										←		→	発掘作業員任用
島津義弘陣跡	◎報告書作成作業	報酬・社会保険・委託	←											→	

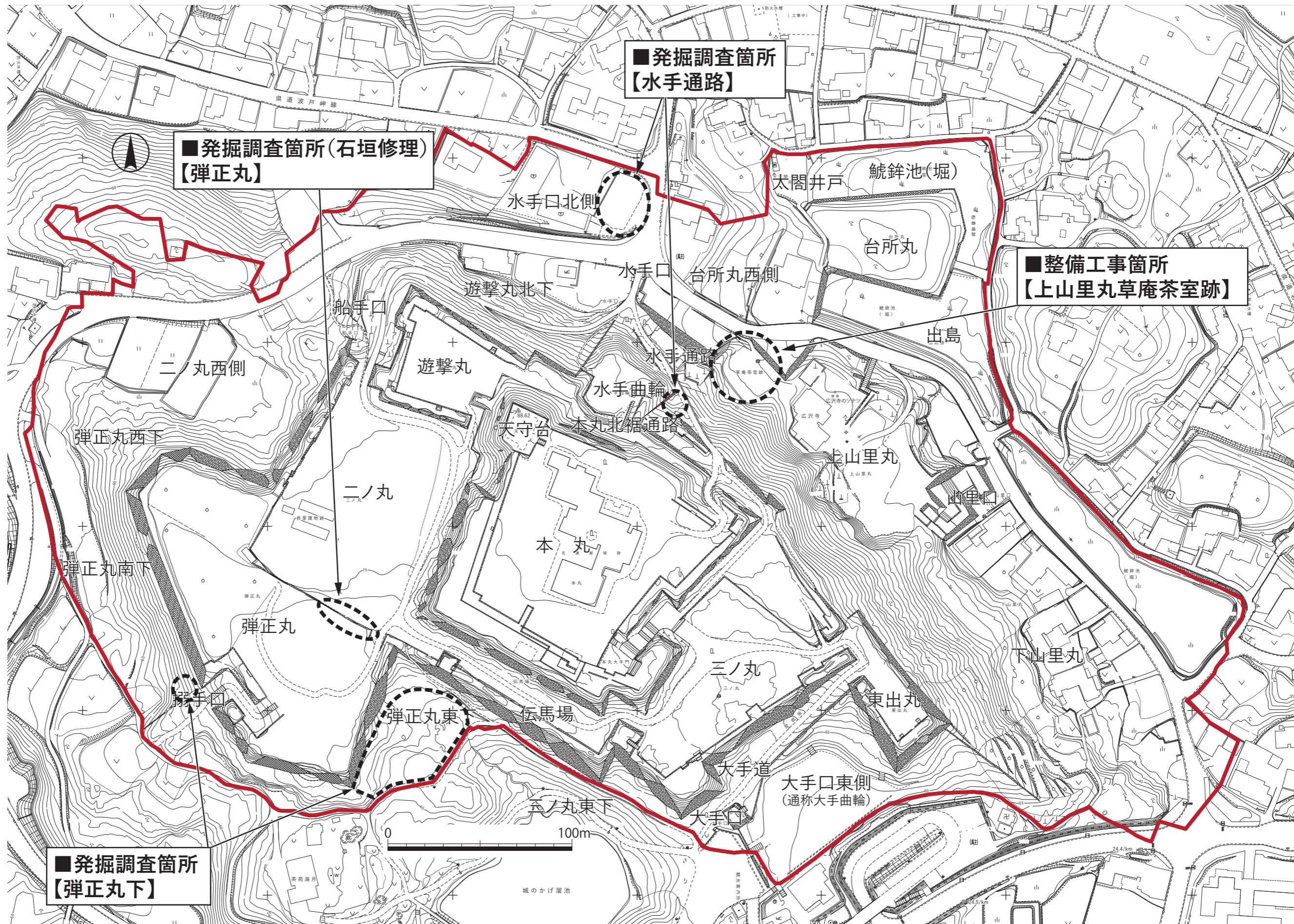
【名護屋城跡並陣跡保存整備事業第5期計画】

第4期保存整備計画 (平成25～令和4年度)

第5期保存整備計画(令和5～14年度)

年 度	25	26	27	28	29	30	31・元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
発掘調査	本城跡	船手口周辺 全域予備調査	遊撃丸下	山里丸下	太閤井戸		弾正丸周辺				弾正丸周辺 水出通路				船手口西斜面	遊撃丸北下 水手口東側		山里丸斜面地			
	陣跡 (重要陣跡)	徳川家康本陣									黒田長政					生駒親正					
				島津義弘																	
	太閤道 城下町ほか			太閤道、城下町、石採り場、関連施設、陣跡悉皆調査									太閤道、城下町、石採り場、関連施設、陣跡悉皆調査								
	報告書			(発掘調査報告書作成)									(発掘調査報告書作成)								
	事業費 (千円)	10,946	11,108	9,620	11,762	10,204	9,330	7,942	10,116	9,806	6,802	5,340									
保存整備	本城跡	本丸御殿跡		草庵茶室跡													水手曲輪・本丸北裾・水手通路等				
										(完了)											
			本丸北裾									弾正丸石垣		三ノ丸内面石垣			水出通路・本丸北側石垣				
				(危険箇所の把握・緊急修理)									(危険箇所の把握・緊急修理)								
	陣跡											前田利家					古田織部				
報告書				(保存修理報告書作成)									(保存修理報告書作成)								
事業費 (千円)	19,736	20,260	13,468	16,994	15,026	15,834	15,221	13,096	17,494	18,800	15,538										
事業費 (千円)	30,682	31,368	23,088	28,756	25,230	25,164	23,163	23,212	27,300	25,602	20,878										

※令和5年度の事業費は、文化庁国庫補助金の事業費認承額。



【名護屋城跡】令和5年度整備工事・発掘調査実施箇所位置図

(2) 整備の内容と方法について

①上山里丸草庵茶室跡

■発掘調査の成果

平成9年度に発見された山里丸草庵茶室跡は、桃山時代の茶室跡として全国的にも貴重であり、飛石や井戸・垣根・玉砂利敷なども発見されている。このことから、大坂城や伏見城にも存在した当時の山里丸の様子を唯一再現できる遺構として重要である。また、博多の豪商神屋宗湛が記した「宗湛日記」の、天正20(1592)年11月の「山里御座敷開き」について記載された「草庵茶室」そのものであることが推定されている。発掘調査成果と歴史史料の両面から豊臣秀吉の名護屋城での暮らしぶりを考察することが出来る遺構としても価値が高い。

■整備工事の概要

発掘調査の成果からは、大陸進出の基地としてだけではなく、桃山文化の発信・交流の場となった名護屋城の文化的側面を象徴する新たな見学スポットとして期待できる。公開・活用を図るため、草庵茶室跡・南西斜面を含む上山里丸の数寄空間の整備を行う。

■整備方針の検討

名護屋城跡・陣跡における遺構整備の基本コンセプトは、「現状維持を優先した整備」であり、「原則として建物立体復元手法を採用しない、破壊・廃陣直後の遺構保存と遺跡の現況景観の維持を第一前提」としている(「名護屋城跡並びに陣跡」第3期保存整備事業計画[平成14年度])。エリア別の整備方針では、破却の景観をよく残している「山上地区」(本丸・二ノ丸・三ノ丸など山上の曲輪群)に対し、北側山裾にあたる「山里地区」は民家・道路がそのエリア内に含まれ、旧状が大きく改変されている部分も多いことから、「より積極的な整備を行い、城と(現在の)町につながりをもたせる整備を検討」するエリアとしての位置付けがなされている(『特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」保存整備計画』第4期計画 平成5年3月)。草庵茶室跡においては数寄空間が体験できるよう、平面遺構表示の他、南西斜面の路地等を含む整備が考えられる。

■整備手法

草庵茶室跡周辺の整備にあたっては、名護屋城跡全体の整備基本方針を踏まえた上で、遺構の性格を表す地形復元や平面遺構表示、説明板の設置、他の曲輪等への通路など今後の活用につなげていくための積極的な整備が必要である。

■課題

草庵茶室への往時の動線は、山里丸御殿(現在の広沢寺)からの通路のほか、水手通路から北東側の斜面をつづら折れに降りる路地の2つを確認している。第5期計画では

つづら折れの路地を整備し、水手通路に重なる現在も管理用道路に接続する計画を立てている。つづら折れ路地の整備には一部堀切状になるなど現況とは異なる地形の復元とともに、周囲の樹木管理を含む環境整備も必要となる。現状は樹木の繁茂により本丸を臨むことが出来ないが、当時の景観について検討した上で、茶室と一体化した山里の数寄空間を再現する必要がある一方、つづら折れの路地からは木製デッキ等を介して水手通路に上られるようにするなど見学者の利便性・安全性を踏まえて検討を行う必要がある。



草庵茶室跡発掘調査状況(全景)



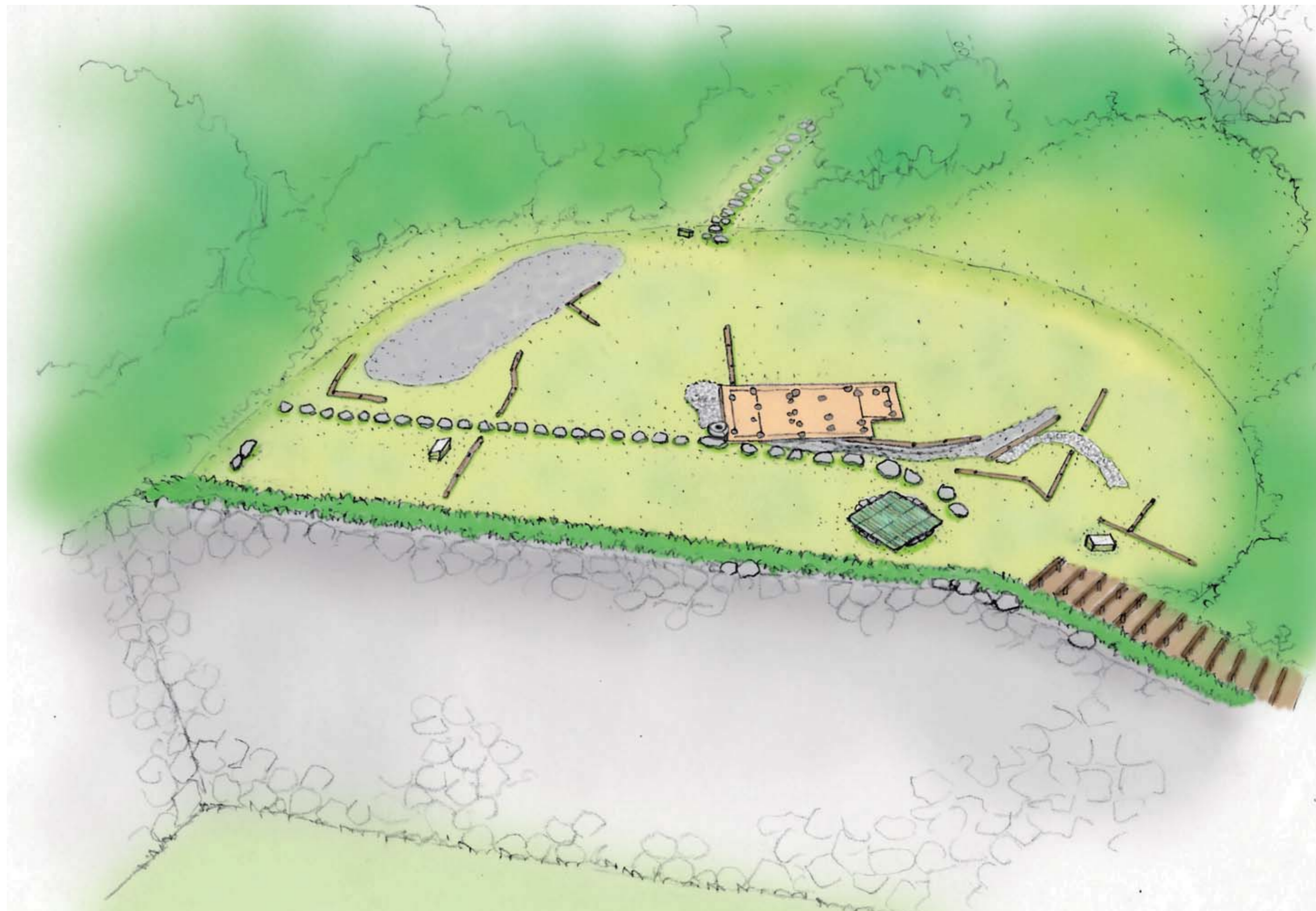
草庵茶室跡発掘調査状況(茶室部分)



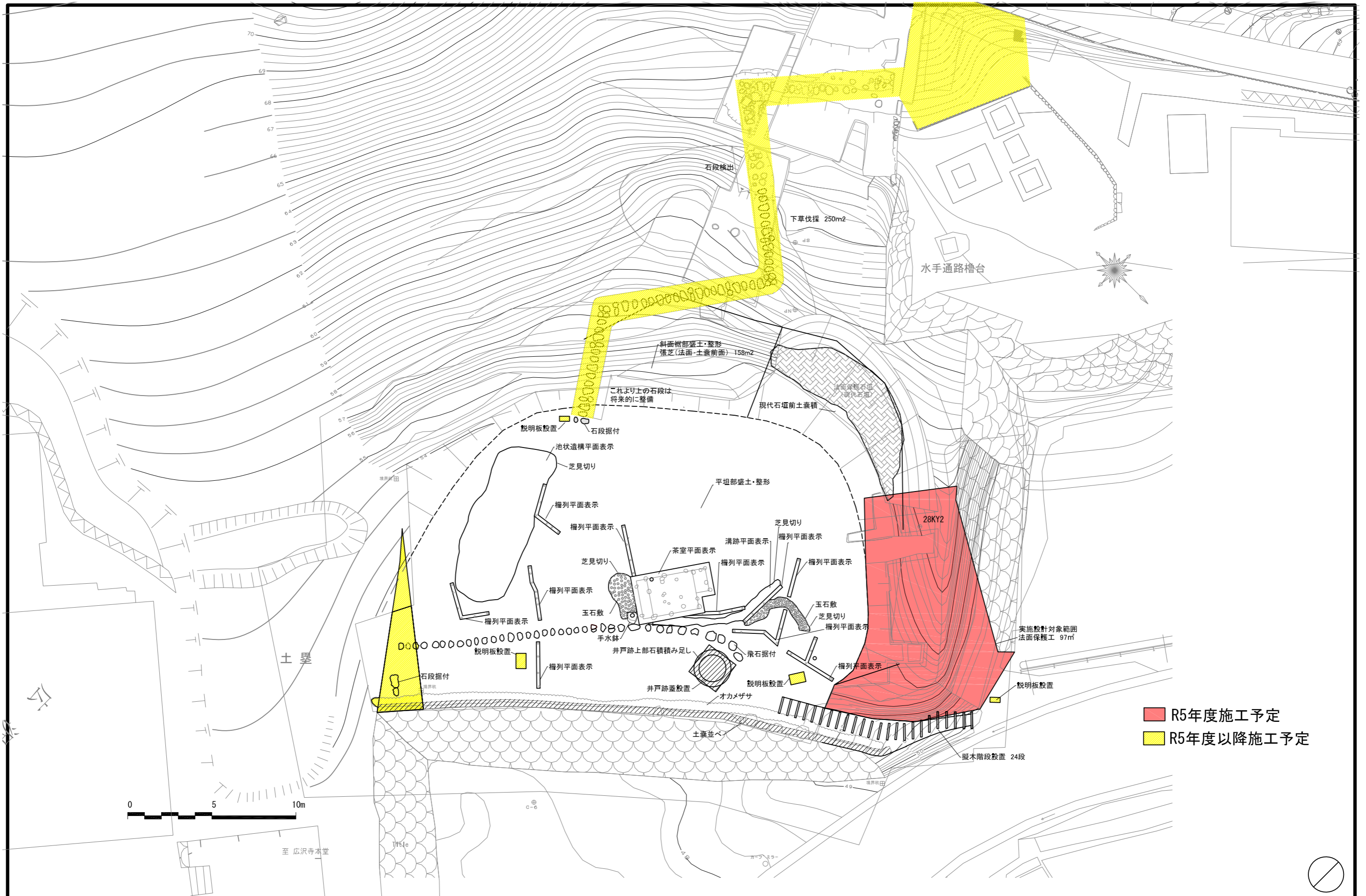
草庵茶室復元想像図



草庵茶室跡整備状況



名護屋城跡上山里丸草庵茶室跡実施設計 修景整備イメージ図



Construction Name
名護屋城跡環境整備工事

Title
名護屋城跡上山里丸計画平面図

Scale

佐賀県立 名護屋城博物館
Saga Prefectural Nagaya Castle Museum

No.

令和5年度名護屋城跡保存整備事業に伴う上山里丸草庵茶室跡北側法面の環境整備工事実施設計業務委託

(1) 設計対象 名護屋城跡上山里丸草庵茶室跡北側法面

(2) 設計面積 97 m²

(3) 設計方針

上山里丸草庵茶室跡北側法面の石垣が積まれていない部分について、露出している栗石等が崩落しないように、盛土と植生によって地盤の安定化を図るための実施設計を行う。

また、令和4年度の環境整備工事で伐採し切株となった樹木について、一部表土を浮き上がらせるなど地盤に対して悪影響がみられるものについては、これの除根を行う。除根を行わないその他の切株についてはそのままの状態を維持する。

(4) 設計概要

【漉き取り】…樹木の根により浮き上がった土を漉き取る。

【除根】…土を浮き上がらせている切株を除根する。

【盛土】…石垣が積まれていない部分に土嚢を木口積みし、栗石等の崩落を防止する。

【植栽】…盛土の表面に張芝と植生マットを敷き、植栽することで盛土の安定化を図る。



平面遺構表示 (南から見る)



平面遺構表示 (西から見る)



平面遺構表示 (東から見る)



北側法面 (北から見る)



北側法面 (東から見る)



北側法面 (北西から見る)

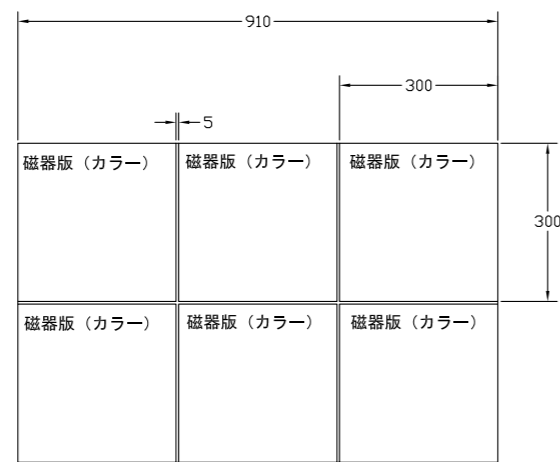


設計範囲の概要

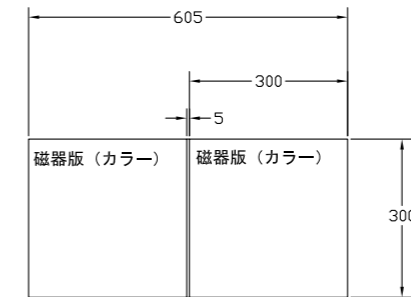
漉き取り
盛土、植栽

除根

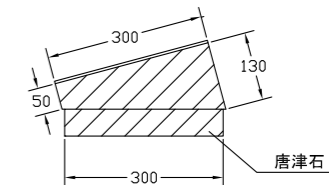
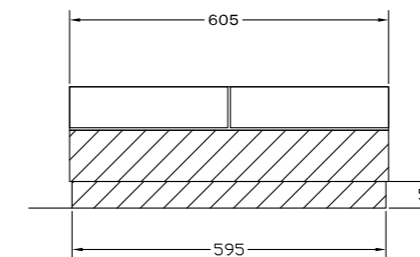
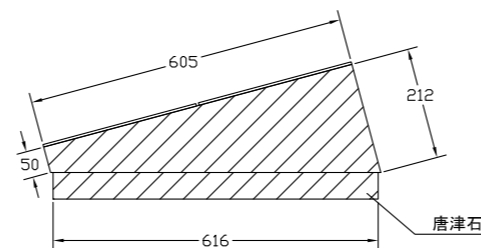
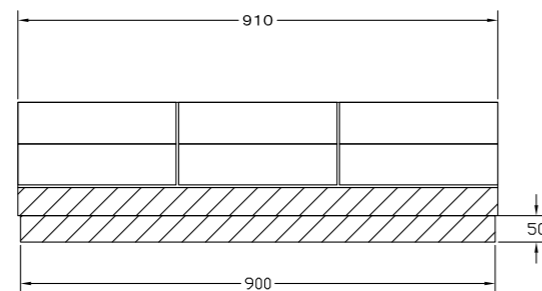
案



説明板(大)



説明板(小)



【仕様】

(磁器板)

- ・磁器板は白磁、磁器質で、強度は600N/cm程度のものとする。
- ・絵付けは、文字(単色)については、下絵、図面・写真(カラー)については、原図の発色具合に応じて、上絵、あるいは下絵での施工について監督員との協議の上、決定するものとする。

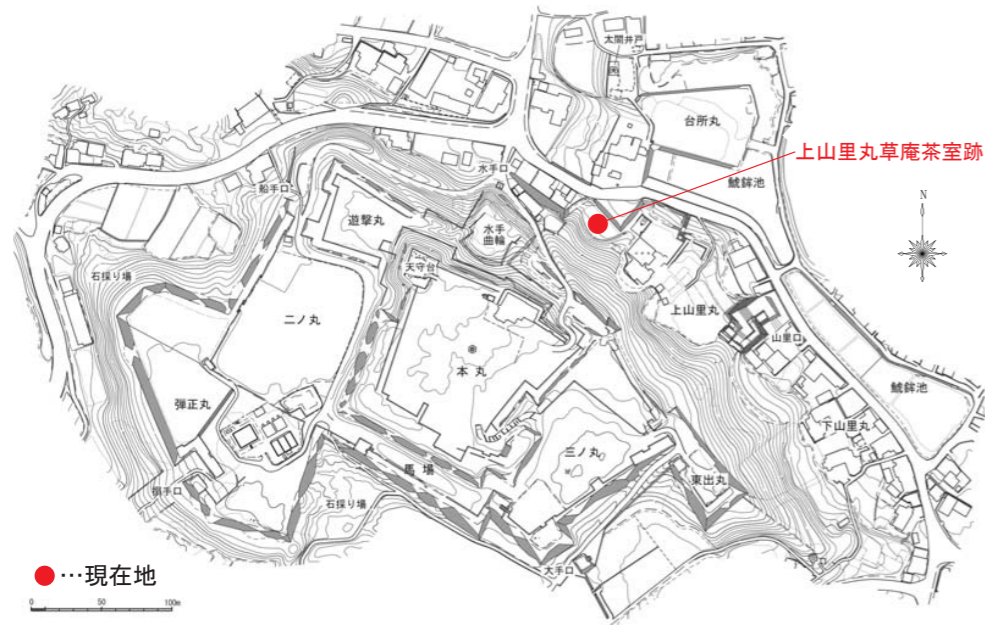
(唐津石)

- ・側面はサンド仕上げとする。
- ・設置にあたっては、地表面を不陸整形の上、据え置きのみとする。

名護屋城跡

かみやまざとまるそうあんちゃしつあと

上山里丸草庵茶室跡



■草庵茶室跡の発掘調査

上山里丸北西部で発見された茶室跡の発掘調査は、平成9年度から10年度（1997～98）に実施されました。名護屋城での「茶の湯」文化が窺える重要な遺構です。

■上山里丸小曲輪

上山里丸小曲輪は山里丸居館部（現広沢寺）から北西側に張り出すように配置しています。北東面高さ約6m、北西面高さ5m弱で築かれています。南西面は斜面地で秀吉居館部との間に尾根が伸びます。



上山里丸草庵茶室跡発掘調査状況（北東から）



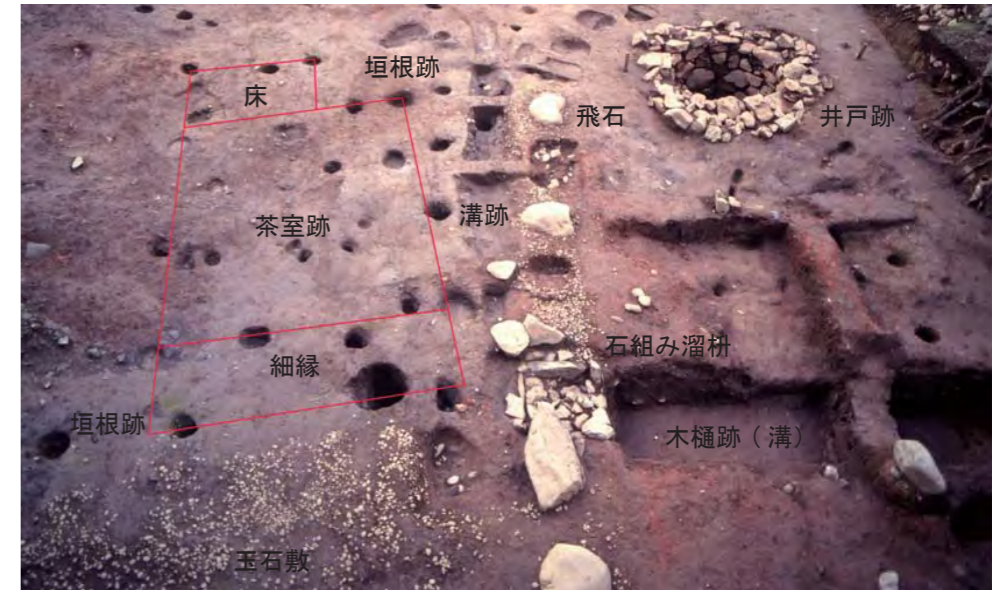
石段、玉石、飛石、垣根跡、池状遺構（東から）

■草庵茶室跡と周辺をつなぐ遺構①

発掘調査では、南西斜面地足元の石段から茶室前まで敷かれる玉石敷や山里丸居館部が位置する南東方向から井戸跡まで直線的に延びる飛石を確認しました。

■草庵茶室跡と周囲の遺構

茶室跡は地面に穴を掘り柱を立てる掘立柱構造で、広さは4畳半程です。柱穴は小さく浅く、床や縁の並びも確認できました。周囲には井戸跡、石組み溜枒、木樋跡、溝など水関連遺構も発見されています。



上山里丸草庵茶室跡との遺構周囲（東から）



飛石列と石段（北西から）



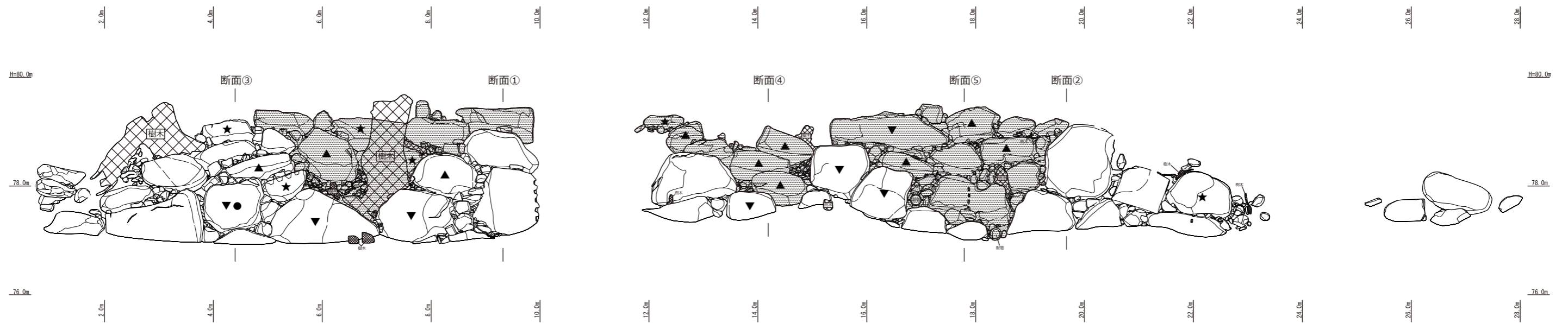
井戸跡周囲の飛石抜き取り痕（北西から）

飛石列上には中門、脇には垣根を配置し、茶室へ至る路地空間を構成していました。また、山里丸居館部に向かう飛石列の先で石段も見つかっています。なお、曲輪北隅部の通路は、近現代に造られたものです。

名護屋城跡弾正丸石垣修理計画

○修理方針

- ・名護屋浄水場に伴い配管等が設置された影響や樹木の生育の影響により変状をきたした石垣について、本来の形状や安定的な構造を取り戻すべく、必要最小限の範囲(解体修理範囲(案))で解体・積み直しを行う。
- ・石垣の復旧にあたっては、弾正丸石垣(238面石垣)の本来の勾配(約76°)に復旧する。
- ・破却部分については、城跡の歴史性を踏まえ、盛土などで破却状況を維持しつつ復旧する。
- ・石垣面に遺存する樹木については、可能な限り抜根等を行い、石垣の安定化を図るものとする。



凡例

- ▲ :ズレ (石尻下がり)
- ▼ :ズレ (石尻上がり)
- ★ :ズレ (その他)
- :石の割れ・つぶれ
- 解体修理範囲 (案)

令和4・5年度発掘調査箇所(水手通路)



①481トレンチ全景(北西から見る)

481

水手口



②481トレンチ通路法面(北から見る)

水手曲輪



③R5発掘調査区全景(南から見る)



写真77 第287調査区(西から)

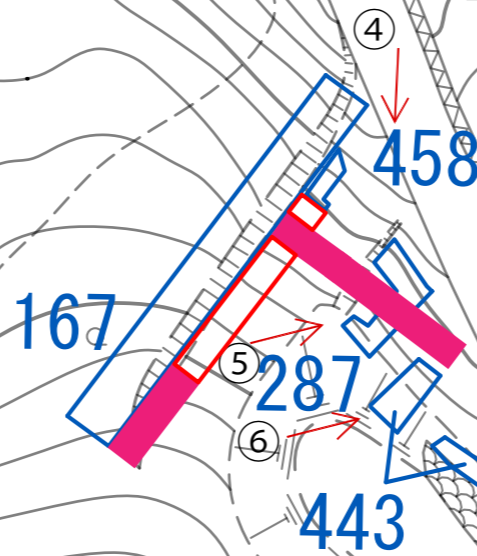
⑤287トレンチ全景(西から見る)



④R5発掘調査区全景(北から見る)



⑥443トレンチ全景(西から見る)



⑦443トレンチ全景(北東から見る)

上山里丸

令和4年度発掘調査箇所・令和5年度発掘調査予定箇所(名護屋城跡 弾正丸下)





第 487 調査区 発掘調査状況 全景 (南東から)



第 487 調査区 礫面・岩盤検出状況 (北東から)



第 493 調査区 発掘調査状況 全景 (南東から)



第 490 調査区 礫面・岩盤検出状況 (西から)



第 487 調査区 礫面検出状況 (南東から)



第 492 調査区 岩盤検出状況 (南西から)



第 487 調査区 北西拡張区 礫面・岩盤検出状況 (北東から)

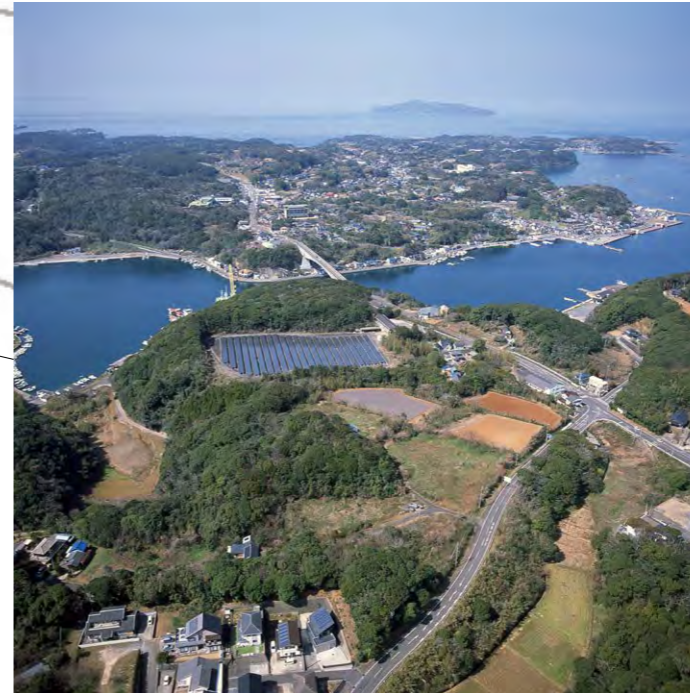
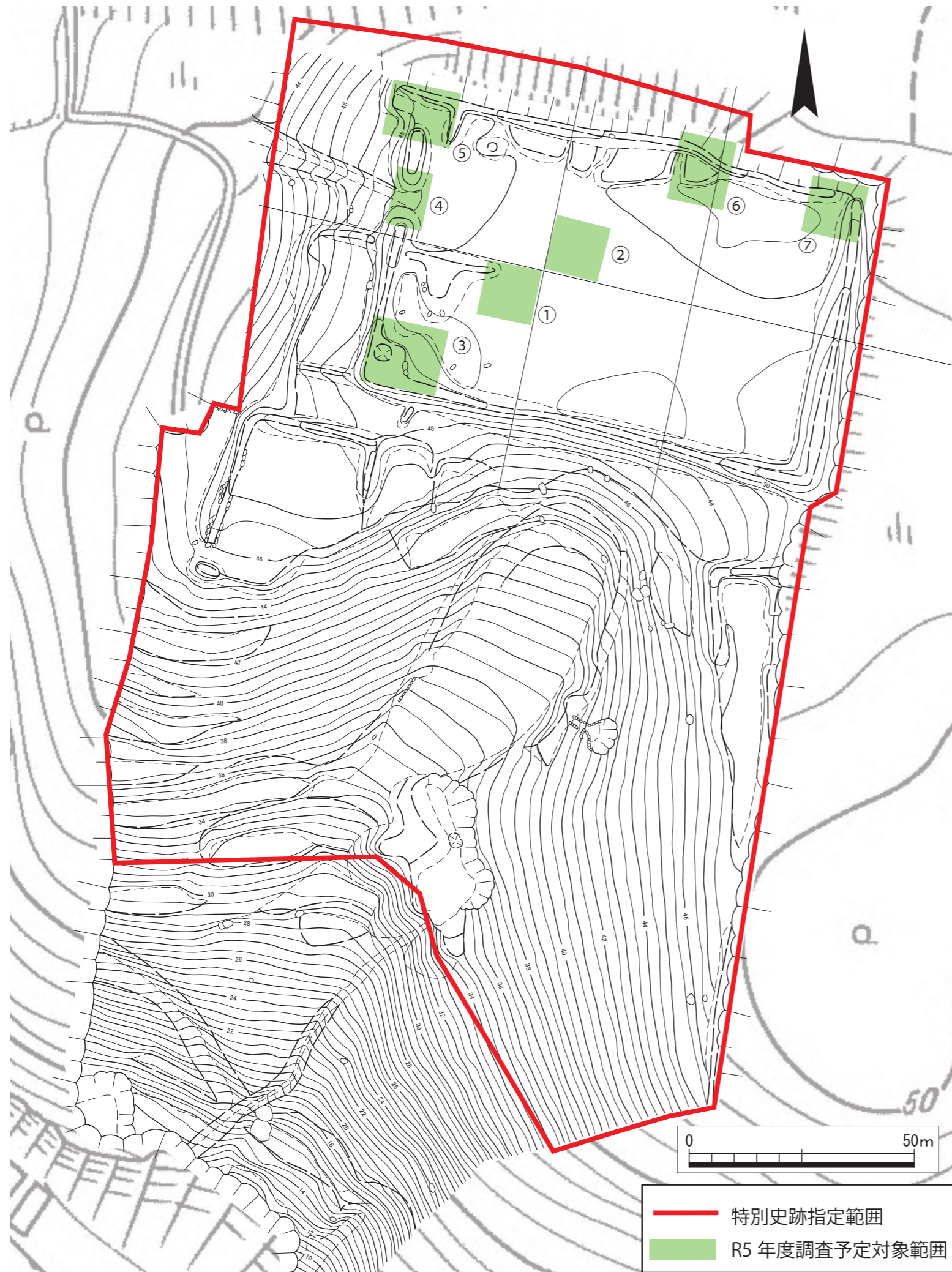


第 491 調査区 発掘調査状況 全景 (南西から)



第 493 調査区西区 礫面検出状況 (南から)

令和5年度黒田長政陣跡発掘調査予定箇所



黒田長政陣跡空撮（南東から）



黒田長政陣跡空撮（上が西）



令和5年度発掘調査予定地①②（西から）



令和5年度発掘調査予定地③（北東から）



令和5年度発掘調査予定地④（東から）



令和5年度発掘調査予定地⑤（東から）

令和3・4年度発掘調査実施地 島津義弘陣跡(No.1陣跡)

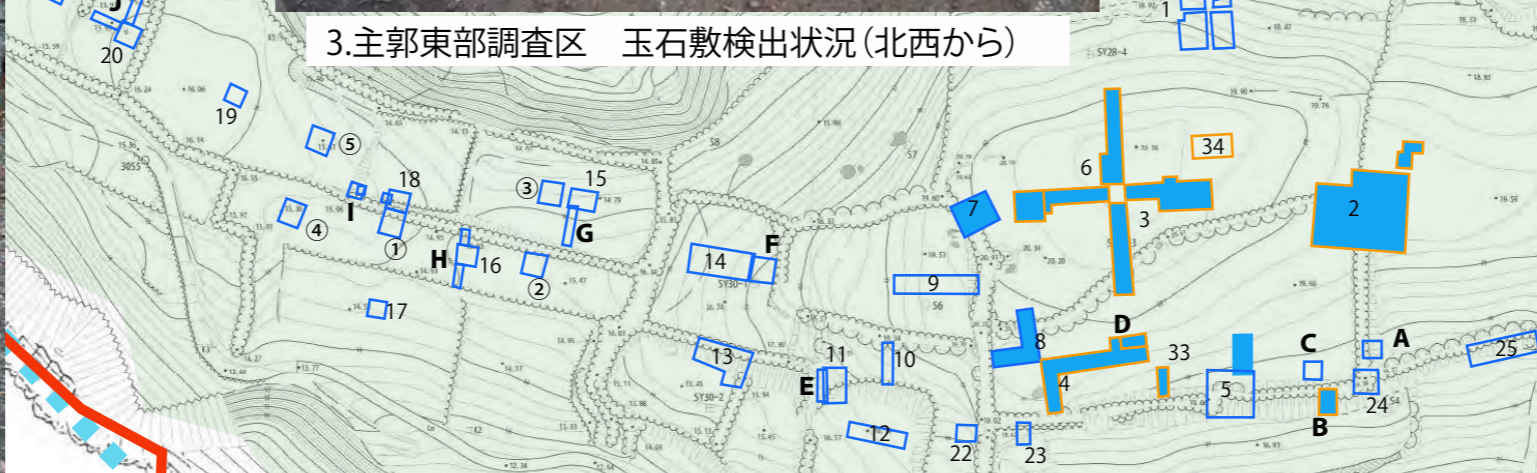
- ◎遺跡名 島津義弘陣跡(No.1陣跡) ◎遺跡番号/時期/種別 唐津市0039/近世/城館跡
- ◎陣跡所在地 唐津市鎮西町名護屋井樋田(通称地名:「サツマジン」「サツマヤマ」)
- ◎周知の埋蔵文化財包蔵地範囲面積 約10万㎡
- ◎特別史跡 33,611㎡ (うち公有地 32,664㎡)
- ◎発掘調査種別 基礎調査・史跡内容確認



6. 主郭西部調査区 溝跡検出状況(西から)



3. 主郭東部調査区 玉石敷検出状況(北西から)



7. 主郭西虎口周辺調査区 全景(北東から)



2. 東虎口周辺調査区 全景(南西から)



4. 主郭南西調査区 全景(南東から)

- 令和3年度調査実施ヶ所
 - 令和4年度補足調査実施予定ヶ所
 - 過年度調査実施ヶ所
 - 周知の埋蔵文化財包蔵地
 - 指定範囲
 - 公有地範囲
- ※トレンチ番号は仮



2. 東虎口周辺調査区(南から)



2. 東虎口周辺調査区(南から)



2. 東虎口周辺調査区(北から)



6. 主郭北部調査区(北から)



2. 東虎口周辺調査区(北東から)



5. 主郭南部調査区(北から)



5. 主郭南部調査区線刻(舟)検出状況(北から)



8. 主郭南西調査区(東から)



4. 主郭南西調査区(北から)



4, D. 主郭南西調査区石列検出状況(南から)



33. 主郭南西調査区南東調査区(北から)